

ゆらの通信

Vol.14

平成23年12月

12月24日。今年のクリスマスイブは、前日からの雪ですっかり銀世界になりました。思い出される去年の暮れ……。この時期に降り始めた雪がとうとう根雪になって、3月、春の彼岸まで雪の消えることはありませんでした。今年はどうな冬になるのでしょうか。あまり降ると厄介な雪ですが、白く覆われた森は本当に幻想的で美しいです。この星の奇跡を想い、生き物の命を想います。



2005年3月20日（6年9ヶ月前の植林の様子）



2006年4月9日（こども森林博士号講座 植林1年後の木の高さ調べ）



2011年12月6日（共生林のクヌギ林です。こんなに大きくなりました）

写真は植林から現在までを追った共生林の写真です。
植林した頃と比べていただくと（植えた子どもたちも大きくなり）立派な林になりました。

この秋も、森では恒例の渡り鳥・野鳥調査がおこなわれました。

野鳥の飛来した時期は例年とほぼ同じなのですが、残念ながら捕獲した個体数は、昨年の半分程でした。飛来する土地の気候や、環境の変化など、日本だけでなくアジア各地の状況も関係しているのでしょうか？

思いをめぐらせながら、森の藪の中や、木立の中を行き交う小鳥たちの気配を感じました。

来年の春にはまた、由良野の森に沢山やってくることを願っています。

2011年6月18日～26日 田頭真理子写真展 IN 東京

東京半蔵門の日本カメラ博物館で『由良野の森』の写真展が行われました。

由良野の森の管理人（わしの）とは、かなり縁遠い感じのする東京ですが、実は森を訪れてくださる方の中には、都会からお越しの皆さんが結構多くいらっしゃいます。

ご縁があって、昨年春と今年の春・秋に3回ほど来られて由良野の森で写真を撮ってくださった、写真家の田頭真理子さん。お若いですが、個展を開いたり、最近は写真集も出版されるなど注目の写真家です。由良野の森でも写真展をしていただけたらいいですね。

滞在中に森に来られていた方々も
（もちろんヤギも鶏も登場）
被写体になりました。
東京での写真展の一部を
ご紹介します。



2011年8月7日 第6回手打ちうどん体験



（工房前にできた、特設会場。今年は、雨も程よく降って、水の心配もありませんでした。）



毎年恒例。老若男女に大人気の手打ちうどん！！

この夏で6回目になる手打ちうどん体験に、今年も松山の「うどん坊」中塚さんご夫婦が来てくれました。毎年、楽しみにしている人も、初めての人も、大人から幼児までみんな参加で作りました。さすがに年を追う毎に、うどんの打ち方も切り方もずいぶんと上手になってきました。団子のようなうどんを食べたのが懐かしい・・・(ことはないですが)、かなりハイレベルの出来栄え。おなか一杯になるまでおいしく頂き、みんなで記念撮影をしました。中塚さんご夫妻のご好意に感謝いたします。

2011年8月7日 第44回こども森林博士号講座 (沢の中の生き物)

由良野の森に接する由良野川。気温が高い夏の日でも、沢に下りると一気に涼しくなります。由良野に半世紀以上暮らす伊藤さんによると、近年は水量がかなり減っているそうです。森が植林になったことや雨量が減っていることなど原因はいろいろ考えられますが、そこでも逞しく生きる水生生物たち。参加者みんなでワイワイ言いながら捕獲観察しました。

子どもより、真剣になっているお父さんたちが目立ちます。泳ぎ始めた子どもたちもたくさんいました。子どもの歓声の響く森はほんとにうれしいです。



2011年8月 日本ミツバチ



冬の大雪と夏の暑さも原因なのでしょうか??。

4つあったミツバチの巣は、スズメバチや巣虫にやられたりして1つになりました。

弱った蜂の巣箱に、花粉とともに運ばれて侵入した『巣虫』と呼ばれる蛾の幼虫が、蜜をどんどん食べてしまうのです。

ミツバチを飼っておられるところでは、近年、ミツバチが減っている話も聞きます。ここでも気候に大きく影響を受ける昆虫たちの姿を目の当たりにすることができます。

夏は、早朝によく『トンボ』や『せみ』の脱皮を見ることがあります。
右の写真は池のそばのサクラの木に登っていたセミの幼虫。
あまり低いところにいると、ニワトリに食べられてしまうので、見つけてきた子どもたちが家の中の網戸に移しました。
見る見るうちに中から、エメラルドグリーン of 宝石のようなせみが現れます。
脱皮は本当に神秘的です。



2011年8月 養蚕



いつもは桑の実の時期に重なる6月に飼っていた蚕ですが、今年は8月にしてみました。
梅雨時期と違い、桑の葉を集めるのはかなり楽でした。が・・・葉が硬い。

それでも蚕さんは元気におおきくなりました。今年もいい糸ができそうです。

2011年9月7日 カエントケ見つかる

致死量わずか3匹といわれる猛毒きのこ。最近、中国地方でも見つかっているということですが、この夏、由良野の共生林で、山本栄治さんが発見しました。
愛媛県では2例目だそうで、愛媛新聞にも取り上げていただきました。
早速、愛媛きのこ観察会の皆さんに同行していただき、専門的に見てもらって確認しました。
この日は、ほかにもたくさんのきのこを発見。共生林は本当に多くの種類のきのこが自生していることが確認できました。中には、最近ほとんど見られなくなったというものもあって、かつての森の豊かさに思いをはせることにもなりました。

カエントケについては、触った手でものを食べても危険だそうです。
どこかの森で見つけても触らないようにご注意ください・・・。



土の中に埋められた鬼が怒って手を突き出したところ・・・との逸話も。
そういわれてみれば～～。

2011年9月6・10日 旧遍路道沿いの無縁仏のお墓に空海像

この春、由良野の森に寄付していただいた土地の一部に、墓石を集めた場所があることは前回のゆらの通信でお伝えしました。空海ゆかりの旧遍路道沿いということもあり、お大師像をおまつりしました。松山市円通寺の二神住職に来ていただいて、参加者全員で手を合わせました。江戸時代の年号が入った古い石。古の道を歩く人たちに思いをさせました。昭和30年代までは大街道(?)だったという由良野道には、桜の大木が並び、茶店や土産物屋もあったということです。



今の車道の数段上にある旧道も草刈して、道筋がよくわかるようになりました。

2011年9月15日 「持続可能な社会に麻ができること」

講師に NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク理事の赤星栄志さんをお迎えし、「持続可能な社会に麻ができること」と題し大麻の可能性について勉強しました。大麻といえば違法栽培のイメージがありますが、1947年には栽培農地4000 畝、従事者25000人を有する重要な有用植物でした。今も日本以外の各国では食用に、オイルを取って燃料に、オーガニックな繊維として衣服の世界でも市場を広げているそうです。



久万高原の歴史研究をされていた和田正さんにお母様が織られたという大麻の布を見せていただいたことがあります。戦前までは、このあたりでも衣服に加工されていたようです。

2011年10月2日 第45回こども森林博士号講座 「秋の森を散策しよう」

今回の博士号講座は「秋を探す」。ミゾソバの花が満開の森では、虫たちがせっせと蜜を集めていました。参加者の関心はやっぱり《秋の味覚》！！

アケビやムカゴは大人気で、瞬く間にどンドン木に登っている子どもも。



後半はシマヘビを捕まえて大喜びの女の子たち……。ちょっと近寄れない大人たち。

2011年10月2日 第10回ゆらの人間学講座 「よくわかる介護保険」

介護支援専門員で看護師の久保田政美さん（ゆらの会員）に講師をお願いし、介護保険の現状について勉強しました。（見る人）も（看られる人）も我が事の時代です。日々改正されているイメージの介護保険。どういう仕組みになっているのか、ケアマネージャーってどういう仕事をしているのか。具体的な経験をもとに講義をしていただき、久保田さんの人柄がにじみ出るお話で、介護保険が頭の中でかなりすっきりとした感じでした。（資料が事務局にあります・HPでもごらんいただけます。）



2011年10月15日 第11回ゆらの人間学講座 「福島からのメッセージ」

福島県郡山市で震災に遭われ、現在、子どもさんとともに隣の山形県に自主避難中の中村美紀さんにお話をさせていただきました。

震災以降にご縁ができて、以来ずっと連絡を取り続けていたのですが、10日間、3人の娘さんたちとともに森にお越しいただきました。この日は、地震の様子や、原発事故による被害、一般の人たちの生活への影響について生の体験を聞かせて頂きました。



中村さんの子どもたちの通っていた学校をはじめ、多くの場所でまだまだ外遊びのできない状況が続いているとのこと……。森に滞在中は地域の学校に通い、思い切り走り回っていました。ここにいて、私たちにできることを考え続けています。

2011年10月17日 野稲（陸稲）の稲刈り

陸稲を今年も収穫しました。陸稲は連作できない！？ということ、トマトを作っている農大出身の友人に教わり……。 「そうよ～」とあっさり地域の方にも言われ……。それでも、たぶん40キロほどは収穫できたと思います。お手伝いいただいた皆様、ありがとうございました！早速稲木で天日乾燥しました。



久万でも戦後すぐまでは、ごく当たり前に作られていたそうです。

2011年10月19日 父二峰小学校の学外地域学習

地元の小学生が地域学習で由良野の森にやってきました。公民館や老人会の方も同行され、この地区の昔の様子や、遠足でよく歩いてきた話、養蚕や植物染料を使った染物の説明を聞き、藍染の体験をしました。みんな良い笑顔です。



2011年10月 裸麦を蒔きました

この春と秋に開墾整地した畑に裸麦（まんねんぼし）を蒔きました。早速芽が出ています。春の収穫が楽しみです。ぜひ麦踏みにお越しください。冬の間には野うさぎの食料になってしまうかも・・・と少し不安ですが。



その前に放牧中の気ままなヤギたちにやられそう・・・。

現在由良野の森には3頭がのんびりやんちゃに暮らしています。

自然の循環・冬までにやる畑仕事

秋の日差しを浴びて、山の仕事が山積みです。山本栄治さんに教わって、森の住人も何とかかんとか、見よう見まねの農作業中。少し大きくなったこどもたちも、お手伝いに気合が入ります。大助かり。

いつもの見慣れた風景、農村に来ると見るあの不思議な形の草（カヤ）の束は??→

このあたりでは（ぼーと）というそうです。そして右は春の畑に使う堆肥を作るための落ち葉集めです。



軽トラックに何回も畑に運びました。滞在中のお客さんにもみんな手伝っていただいて、何とか不恰好な（ぼーと）完成。あとは、おいしい野菜を育てるばかり??・・・なんだけどな。



2011年12月11日 会員交流お餅つき

恒例の会員親睦餅つき！！やっぱり今年も寒かった～。



陸稲のお餅は、今年も人気です。色はちょっぴり茶色でほんのり甘いおいしい玄米餅！



初めての人も、
一年に何回もやる人も、
みんな大笑いの一日。

食べるの専門のあの人も、監督さんたちにもおいしかった今年のお餅つき。
ぜひ、次回は皆さんも食べにきてくださいね。

2011年12月11日 ブチゴマあそび大会

会員で、久万高原遊山会の古田隆さんと土居道秀さんが講師で来てくださいました。
おふたりが子どもの頃（60年以上前??ですよね・・・）は、自分で山に入り、
刃物を使い材料を選んで遊んでたんだそうです。すごい。



たたく鞭には、三桎の外皮を
使います。子ども博士たちも
道具を使うところからやりま
した。叩いてやわらかく！！
右端の写真は先を削って
作った『コマ』。硬い木は
樫の木を使いました。

大人も熱狂！

地元の小学校でもやりましたが一時間くらいで上手に廻わせました。



事務局より

今年は、たくさんの人にとって、人生のひっくり返ってしまうような出来事が起こりました。一年を振り返ると、本当にたくさんの方が変わっていったように思います。

長いようで短い365日。

『ゆらの』が発足して8年。荒地だったこの土地に、みんなで植えた木々は見上げるような高さになって『森』を形成し始めています。

震災後、改めて宮崎駿監督の『ナウシカ』の原作を図書館で借りてきて読んでみました。映画では語られなかった多くのストーリーには、人が他の命とともに腐海の森で生きていくことが語られていました。

いろんなことがあります。由良野の森も着実に育ちつつあります。

『それでも人生にイエスという』(V.E フランクル)ということでしょうか。

私たちとともに、自然体で暮らしていこうと改めて思う年の瀬です。

最近、日本各地から森を訪れてくださる方が年々増え続けています。

ご縁が広がり、支援をしてくださる方々に感謝の毎日です。

その一方で過疎高齢化の進む地域での暮らしは結構忙しく、十分にお迎えできていないもどかしさもあって、皆様にはご心配もおかけし、反省の日々でもあります。

荒れた桑畑からはじまった由良野の森。里山は順調に(だぶん)。

里の生活や環境も失敗を重ねながらボチボチと成長をしています(きっと)。

ゆらの事務局、お助けスタッフ一同、2012年も元気の種が蒔けるようがんばります。森が一層ほっこりできる場所になりますように。

会員皆様からの声もお届けください。

電話・FAX (0892) 21-8076 鷺野宏(わしのひろし)

メールアドレス yurano@yuranonomori.jp

インターネット環境のある方は、由良野の森で検索していただければ、ごらんいただけます。

不定期に森のブログも更新しています。